

# きらめき

北斗市立大野中学校  
研 究 部  
第 8 号  
2018.11.5

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

～資質・能力の「三つの柱」の育成を目指して～

【めあて】研究授業を振り返り、明日からの授業に活かそう。

## 11月校内研修内容



□板書に「学習課題」・「まとめ」を活用している。

●11月の振り返り

□学習の約束について指導している。

□家庭学習の方法について具体的に指導している。

□グループやペアでの活動形態を取り入れている。

□役割や責任を生徒に意識させたペアやグループ活動を行っている。

□ピアサポートやクラス会議など関わり合う場を意図的に作っている。

□ICT機器を効果的に活用している。

### 事後研修② <2B 数学 野登 T・鈴木亮 T～角の二等分線がかけることを証明する～>

授業から：ゴールを意識。手順を意識。

#### <基礎コース>

○見通しをもった授業。前後の繋がりがあった。

○問題を焦点化出来ていたこと。

○到達点が明確だった。ゴールの姿が明確。

○生徒が説明する場面の設定が良い。

○「わかった」の笑顔が見られた。

●課題の板書を間違えた。

●発問の工夫。なかなか理解出来ていなかった。

「どうことを示せばそうなるのか」

意図的な発問にする。

●課題とまとめの整合性。1年と2年の指導内容の違いをもう一度考える。

授業から：証明の書き方を意識。

#### <発展コース>

○生徒の発言をできるだけ拾って取り上げようとする姿勢が良い。さくっといく所は流しても良い。

○真面目な亮平先生は、とても丁寧に進めていた。

○生徒が意欲的に取り組んでいた。

○まとめまでを時間内におさめることが出来た。

●最初に課題提示をして、見通しをもたせる。

●時間がかかりすぎた。

●一問一答が多く、混乱させてしまった。

●説明をコンパクトにする。生徒を見て話す。

### <渡島教育局 大山裕之 指導主事から>

- ・1年生の作図では、線対称であることから角が等しいことを学習した。
- ・2年生の証明では、三角形の合同条件を利用して角が等しいことを言わなければならない。
- ・この発問だと1年生の学習に戻ってしまう可能性がある。  
(折れば重なるから角が等しい、という返答になる。)
- ・本時で初めて「合同条件を使う場面」がくるので、  
まとめには「三角形の合同条件を利用して～」が入る必要がある。
- ・いくつかの点(知識・技能)が結びついて深い学びとなる。
- ・本時では、「主体的な学び・対話的な学び」ではなく、「深い学び」だったかもしれない。
- ・3つの学びについて、「何時間目にどの学びになるのか」を今後もう一度検討していく必要がある。



◎今後の日程です。授業を終えた先生は、研究部フォルダに・指導案・単元構想シート を提出して下さい。

|     |              |                   |
|-----|--------------|-------------------|
| 第4期 | 11月29日       | 情報研 … 中村・三笠、田中・上原 |
| 第5期 | 11月30～12月18日 | ①佐藤 ②藤田 高橋        |